

第7回全国合気道指導者研修会

合気道指導者研修会



金澤講師による実技指導の様子

第7回全国合気道指導者研修会（主催＝日本武道館・合気会、後援＝スポーツ庁）が11月1日～3日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで行われた。講師・助講師10名、合気道未経験者の中学校保健体育科教員を含む74名が参加した。

■1日目（11月1日）

開講式では、はじめに植芝守央合気会理事長が主催者挨拶。「本研修会は、中学校・高等学校の保健体育科教員及び社会体育指導者を対象に、学校教育における合気道の指導法に関する実技と講義を行い、学校における合気道指導の充実に資するという趣旨で開催しております。全国から集まった学校の先生方、地域の指導者の皆様には、趣旨に則り、しっかりと勉強していただきたいと思っております。これからの中学校での授業、また、各地域の授業における外部指導者としての要請があった場合に速やかに対応できるよう、3日間しっかりと研修していただき、今後の指導に活かしていただきたいと思っております」

次に、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が挨拶。「中学校武道必修化が始まり8年が経過し、

2年後の新学習指導要領には、合気道を含めた武道9種目が並列明記されることが決まりました。スポーツ庁はその先行事業として、外部指導者を活用した複数種目のモデル実践校を全国9ブロック、約96校で計画しています。合気道は国内のみならず、国際的にも大きな広がりを見せ、武道人口も増加していますが、中学校武道必修化においては実施校の増加が求められています。中学校でより多くの子どもたちが合気道に接することができるよう、地域連携についても情報交換をしながら進めていただければと思います。また、初心者の先生方には、この3日間で合気道の素晴らしさを学んでいただき、実りのある研修となることを期待しております」

開講式後、植芝守央特別講師が『合気道とは』と題し、講義・稽古を行った。はじめにDVDを鑑賞し、合気道の歴史、概要、合気道の教育的効果を説明した。その後、「受け身」、「転換」、「入身」などの基本的動作から「正面打ち入身投げ」、「片手取り四方投げ」、「正面打ち第一教」などを稽古した。

続いて、笠原政志講師による『指導現場における緊急時対応計画の必要性』の講義が行われた。

学校現場やスポーツ大会における様々な事例を紹介しながら、救急処置、熱中症対策について説明した。「予測してあらゆるアクシデントに対して準備・対応することが重要で、的確な緊急処置と安全な救急体制の構築のために、①実態の把握、②病態の理解、③処置方法の理解・実践、④緊急時対応計画の作成、⑤シミュレーション、⑥いざというときに実践、を繰り返すことが大事である」と述べた。

■2日目（11月2日）

午前は、中学校合気道指導法班（24名）と全国合気道指導者研修班（50名）に分かれて研修が行われた。

中学校合気道指導法班では、梅津翔助講師が1年次の指導法として「礼法」、「受け身」、「体さばき」を紹介、その後「逆半身片手取り角落とし」、「相半身片手取り小手返し」を指導した。逆半身片手取り角落としでは、まず①送り足、②相手の肘に手、③歩み足、④投げという段階を踏んだ指導方法を紹介した。それに加え、③受け身が膝をつく、④受け身、⑤投げ、とさらに細かくし、生徒の安全性を確保する方法も紹介された。

次に、日野皓正講師が2年次の指導例として、「逆半身片手取り四方投げ裏」、「座り技呼吸法」を指導した。「同じ体格の生徒同士で組ませることが技をかける上での前提となるが、それでも身長差がある場合は、膝の屈伸を利用して投げるのがポイントだ」と説明した。また、しっかりと手を握らない女子生徒に対しては、ペットボトルを用いて行う指導法も紹介した。最後に午前中に行っ



日野講師による実技指導の様子

た上記4つの技の復習をし、技の確認を行った。

全国指導者研修班は、『稽古中の一般的な事故』について事例に基づいての対応』というテーマでグループディスカッション・発表を行った。

午後は、川城健講師が『生涯スポーツ』につながる武道「合気道」の授業」と題して講演を行った。「保健体育の授業と道場での指導は内容が全く異なる。道場は合気道に興味がある子どもが多いが、授業はやりたくない子どももいることを忘れてはいけない」と道場指導と授業の違いについて強調した。また、「まずは運動の楽しさを重視する。その上で合気道ならではの楽しさ・面白さを味わわせるために、合気道の魅力をどう伝えるかを考えながら授業づくりをすることが大事である」と述べた。

続いて、『中学校武道必修化指導書』武道編DVDを視聴、その後、大道場に移動し、金澤威講師が中学校における合気道授業について、合気会発行の『指導の手引き』に沿って実技指導を行った。午前中の中学校指導法班で行った技の復習に加え、抑え技についても指導のポイントをさらに深く教示した。

■3日目（11月3日）

林典夫講師の司会進行の下、授業の実践発表が行われた。はじめに、福田豊仙台市立蒲町中学校教諭と三浦敏仙台市立錦ヶ丘中学校教諭が仙台市立生出中学校での合気道授業を報告。両氏とも、合気道未経験者であったが、本研修会で学んだ経験を活かし、外部指導者を招いた上で実施した。生出中学校は、全校生徒が約50名の小規模校で、福田教諭が合気道授業を導入し、三浦教諭が引き継いだ。「特に女子生徒の反応がよく、今後も合気道を実施したい」と述べた。

次に、金澤講師が複数種目のモデル実践校事業について概要を説明。各都道府県連盟の代表者に理解・協力を求めた。

閉講式では、林典夫合気会常務理事、中島昭博日本武道館振興課長がそれぞれ主催者挨拶を行い、全日程を終了した。